



川口久雄 著

# 繪解きの世界

—  
敦煌からの影  
—

明治書院

[著者略歴]

1910年 金沢に生まれる  
1937年 東京文理科大学国語国文学科卒業  
1960年 金沢大学法文学部教授・文学博士  
1961～1962年 「敦煌資料と日本文学」の課題により在外  
研究員  
現在 金沢大学名誉教授・大東文化大学東洋研究所教授

[主要著作]

かげろふ日記 (古典文学大系) 校訂=岩波書店  
平安朝日本漢文学史の研究上・下=明治書院  
和漢朗詠集 (古典文学大系) 校訂=岩波書店  
菅家文草 (古典文学大系) 校訂=岩波書店  
古本説話集・本朝神仙伝 (古典全書)校訂 =朝日新聞社  
大江匡房 (人物叢書) =吉川弘文館  
西域の虎—平安朝比較文学論集—=吉川弘文館  
花の宴—日本比較文学論集—=吉川弘文館  
平安朝の漢文学 (日本歴史叢書)=吉川弘文館



繪解ぎの世界—敦煌からの影—

定価九八〇〇円

一九八一

昭和五十六年四月二十日 印刷  
昭和五十六年四月二十五日 発行

著者 ©川口久雄

発行者 株式会社 明治書院

代表者 三樹彰

印刷者 大日本法令印刷株式会社

代表者 田中忠

発行所 株式会社 明治書院

東京都千代田区神田錦町一ノ十六  
電話 東京 (二九二) 三七四一(代)  
振替口座 (東京) 三十四九九一番

目次

図版目録……………三

第I篇 我が国における絵解き—敦煌変文からの照射—

絵解きの世界……………三

説話と説経師の系譜……………四

絵解きの演変—浄土戯・地獄戯—……………八五

第II篇 我が国における題画文学

我が国における題画文学の成立と展開……………一五

題画文学と唱導文学……………一五二

第III篇 漢風文化と平安文学

漢風文化と平安朝……………一八五

空海の文学と敦煌資料	三二
我が国の古蹟と敦煌曲子	三九
菅原道真とその文学意識	三五
源氏物語形成と絵解き	二九三
妖艶美の系譜	二九九
中国詞華集の伝統と我が国アンソロジーの展開	三七
第Ⅳ篇 国語散文の流れと物語の絵解き	
国語散文の展開―敦煌資料の視座から―	三四三
絵解きの源流と物語絵の展開	三九一

## 索引

一般項目索引	三
敦煌資料索引〔文献・絵画・窟号〕	一四
絵画一般索引	一九
論文掲載書誌	四七
あとがき	四九

## 図版目録

### □ 絵

(カラー図版)

- I ロンドン・大英博物館・スタイン敦煌幡画『菩薩図』
  - II 著者架蔵本・チベットタンカ『五趣生死輪図』
  - III パリ・国民図書館・ペリオ敦煌画紙本『法華経観世音普門品変相画卷』
  - IV 富山県八尾町本法寺所蔵『法華経曼陀羅(譬喩品)』
  - V 新潟県佐渡郡後藤近吾氏所蔵『熊野観心十界曼陀羅』
  - VI 新潟県佐渡郡後藤近吾氏所蔵『熊野参詣宮曼陀羅』
  - VII 陝西省西安市外・唐章懷太子李賢墓壁画『打毬図』
- (モノクロ図版)
- VIII パッキンガム・コレクション『阿弥陀三尊来迎脇侍図』
  - K 敦煌莫高窟壁画『普賢・文殊菩薩変相画』

X	スペインサー・コレクション『法華経扉絵』	
XI	パリ本・敦煌出土『法華経講經文』	
XII	パリ本・敦煌出土『俗講儀式』	
XIII	パリ本・敦煌出土『降魔変画卷』	
XIV	『東大寺諷誦文稿』『釈迦本縁』*	
XV	富山県瑞泉寺 太子伝会	

挿 絵

01	敦煌莫高窟第三八四窟・胡跪供養菩薩彩塑像……………	(ページ)
02	ロンドン本敦煌出土『大目乾連冥間救母變文』(巻首)……………	二
03	ル・コック影印クツチャ壁画「仏伝変相」(白描)*……………	一〇
04	パリ・ヒマラヤの神々展「ヒマラヤ地方における絵解き用のタンカ製作風景」……………	三
05	富山市高林氏撮影「ラダック地方におけるラマ双身仏の製作風景」……………	三
06	下関赤間神宮所蔵・『平家物語図屏風』……………	二九
07	下関市立図書館所蔵写本・『赤間関阿弥陀寺安徳天皇絵説次第』……………	三〇
08	下関赤間神宮所蔵・『赤間神宮古絵図』……………	三一
09	ワシントン・フリーアギャラリー所蔵『過去現在因果経絵』……………	三三

10	西大寺本『曼荼羅開眼供養等法則集』……………	五二
11	ペキン故宮博物院所藏鄭振鐸影印『清明上河図』*……………	六〇
12	前田家本『枕草子』（経は、だらには、法師は）*……………	六三
13	西大寺本『五蘭盆供養表白』……………	六五
14	越中国井波瑞泉寺太子講・太子伝絵解き〔法師の絵解きと聴衆たち〕……………	六七
15	東南院刊文化十一年板『仏生講式』……………	七〇
16	著者架藏本板本『往生要集』絵入本……………	七七
17	ロンドン本・敦煌出土『十王経画卷』……………	九三
18	レニングラード本・敦煌出土『観仏三昧論経』……………	九五
19	前田家本『桂地藏記』（著者手写）……………	一〇四
20	陝西省・唐章懐太子墓壁画「仕女図」*……………	一一四
21	宮内庁書陵部所藏本『経国集』……………	一一八
22	著者架蔵光緒十三年刊『繡像列仙伝』……………	一二三
23	猪熊本『朝野群載』所収「柿本朝臣人麿画讃」*……………	一四五
24	著者架蔵鄭振鐸刊『九歌図巻』*……………	一五五
25	パリ本・敦煌出土「水月観音菩薩図」……………	一六〇
26	パリ本・敦煌出土「千手千眼観世音菩薩変相題記」……………	一六一



27	神護寺本『両界曼陀羅』*	一六七
28	前田家本『性靈集』(九想詩).....	一七三
29	福井県劔神社本涅槃変相附属卷子『涅槃講式』.....	一七七
30	著者架蔵文化十一年板本『仏生講式』.....	一七九
31	ニューヨーク・在米日本仏教絵画展「三宝への旅」図録「白隠禅師筆禅画」*.....	一八〇
32	正倉院尊蔵弾弓漆画「散葉百伎図」*.....	一八四
33	宮内庁書陵部尊蔵本『凌雲集』(序).....	一八七
34	静嘉堂所蔵脇坂本『文華秀麗集』(序).....	一八八
35	猪熊本『朝野群載』所収「日観集」*.....	一九三
36	静嘉堂本『文華秀麗集』(嵯峨天皇御製).....	一九四
37	成實堂文庫本『性靈集』(山中有何楽).....	二〇二
38	著者架蔵『性靈集』(遊山慕仙詩).....	二〇三
39	ロンドン本・敦煌出土『山僧歌』.....	二〇四
40	パリ本・敦煌出土『修文殿御覽』.....	二〇六
41	聖語蔵旧蔵影印『画図讀文』*.....	二〇八
42	著者架蔵『般若九想図賛』.....	二一四・二一五
43	著者架蔵『和刻九想図本』.....	二二六

44	パリ本・敦煌出土『九想観詩』……………	二二七
45	金剛峯寺所蔵『聾聵指帰』* (序)……………	三三一
46	金剛峯寺所蔵『聾聵指帰』* (仮名乞児論)……………	三三五
47	高山寺本『篆隸万象名義』*……………	三三一
48	ロンドン本・敦煌出土『仏説父母恩重経』(卷末)……………	二四三
49	ペキン本・敦煌出土『仏説父母恩重経変文』*……………	二四三
50	パリ本敦煌出土『五更転 太子入山修道讃』……………	二四七
51	内閣文庫所蔵本・浅草文庫旧蔵『菅家文章』……………	二六三
52	猪熊本『朝野群載』所収菅原道真「内宴春娃無氣力詩序」*……………	二七九
53	蜂須賀家本『紫式部日記絵巻』*……………	二九四
54	昌平坂学問所旧蔵内閣文庫本『賦光源氏物語詩』……………	二九五
55	パリ本・敦煌出土冊子本天宝年間古鈔『白氏詩筆』……………	二九七
56	国会図書館本・森氏旧蔵『本朝麗藻』……………	三〇一
57	教王護国寺本『胎蔵界曼荼羅』*……………	三〇四
58	著者架蔵敦煌文物研究所模写「音楽舞蹈菩薩図」……………	三〇五
59	山岸文庫蔵・九条家本『凌雲集』(聖製春女怨)……………	三〇七
60	敦煌第四五窟・阿難尊者と脇侍菩薩彩塑像*……………	三〇九

61	敦煌第一五九窟壁画・文殊菩薩変相・聖衆図*	三二
62	ロンドン大英博物館所蔵、サンチーより将来ヤクシー女神*	三八
63	インド、サンチー第一塔東門玉垣柱頭裝飾彫刻	三九
64	ロンドン本・敦煌繡帳『靈山釈迦三尊説法図』	三三・三三
65	西ベルリン、ダーレム博物館所蔵ヘッダ出土仏頭	三四
66	韓国刊ソヴエト・アカデミー覆刻『百聯抄解』*	三三
67	ボストン美術館冷泉為恭筆影印『百人一首画稿』	三八
68	ニューデリー・インド国立博物館敦煌出土幡画『延寿命菩薩図』	三四
69	石川県白峰村桑島酒井氏所蔵写本『目連尊者地獄巡り』・著者架蔵刊字留藤大夫直伝本	三六・三四七
70	パリ本・敦煌出土白描土代『降魔変画卷』	三五
71	パリ本・敦煌出土白描土代『降魔変画卷』	三五
72	宮内庁御物・伝行成筆本『倭漢朗詠集』*	三五
73	金沢文庫本『本朝文粹』卷一、「春雪賦」	三六
74	佐藤家旧蔵本複製『東大寺諷誦文』*	三六
75	著者架蔵刊本・岡白駒『雜纂訳解』	三七・三七三
76	内閣文庫所蔵文久刊本『李義山雜纂』	三七
77	吉田幸一氏所蔵本・田中重太郎氏影印『清少納言枕双岳抜書』*	三七五

- 78 前田家本複製『枕草子』(「にげなきもの」)\*……………三六六
- 79 金沢文庫本・劍阿自筆古写『言泉集』(堂塔供養帖)……………三八八
- 80 鶴林寺本・国立奈良博物館石田茂作氏影印『聖徳太子絵伝』\*……………四〇三
- 81 ダブリン本・趙孟頫筆『詩経国風画卷』……………四一四

口絵ならびに挿絵図版は主として著者の撮影したフィルムによるが、また左記の諸書から転載利用させていたものもある。図版目録の件名の下に\*じるしをつけて区別しておいた。これら貴重資料を撮影し影印した博雅の見識の高さと撮影刊行に伴う苦心と努力は、私には身にしみて有難く感ぜられる。測ることのできない学恩に対して深甚の感謝と敬意を表し奉る。また格別に学恩を蒙りお世話になった展覧図録・著作図録類を謝意をもって次に特記しておく。

- 『唐李賢墓・李重潤墓壁画』 一九五七年 陕西省博物館・陕西省文物管理委员会
- 『敦煌の美百選』 一九六六年 円城寺次郎撮影・鄧健吾解説 日本経済新聞社
- 『文物精華』 一九五九年 鄭振鐸編 上海・新華書店
- 『古簡集影』 一九四・五年 東大史料編纂掛
- 『教王護国寺本・両界曼荼羅』 一九七七年 石本泰博撮影 平凡社

'Journey of the Three Jewels, Japanese Buddhist Paintings from Western Collections', by J. M. Rosenfield  
etc. the Asia Society. 1979 New York.

『正倉院展目録』一九五九年一〇月 奈良国立博物館

『聖語藏・画図讀文』狩野直喜・内藤湖南跋・白鶴莊影印

『顰蹙指帰』(金剛峯寺本) 朝陽閣集古複製

『篆隸万象名義』(高山寺本)

『樂式部日記絵卷』(蜂須賀家本)

『百聯抄解』韓国古刊本、ソウエト・アカデミー影印複製

『伝行成筆・倭漢朗詠集』(御物)

『東大寺諷誦文稿』(佐藤家本) 佐藤達次郎影印

『吉田幸一本・清少納言枕双帑拔書』 田中重太郎影印

『尊経閣叢刊』前田育徳会影印

『聖徳太子絵伝』一九五九年三月 国立奈良博物館編 東京美術

'Song of the Brush, Japanese Paintings from the Sansō Collection' Exhibition Catalogue translated by F. E.  
Cranston. Japan House Gallery. 1979. New York.

'Trésors d'Orient, la découverte de l'Orient', a l'occasion de la réunion à Paris du 29<sup>e</sup> Congrès International  
des Orientalistes. Bibliothèque Nationale. 1973. Paris.

'Trésors de Chine et de Haute Asie'. Centième anniversaire de Paul Pelliot, Bibliothèque Nationale 1979 Paris.  
'Dieux et Démon de l'Himalaya, Art du Bouddhisme Lamaïque'. Grand Palais. 1977. Paris.

『日本の説話』特別展目録・便利堂刊行本 一九〇・二年 梅津次郎 京都国立博物館

『高雄曼茶羅』美術研究所報告 一九七一年 高田修・秋山光和・柳沢孝 吉川弘文館

『曼茶羅の研究』一九七五年 石田尚豊 東京美術

また本書は「敦煌絵解き資料と日本文学」の課題による文部省科学研究費昭和五三・五四年度の交付によって研究したものであることをしるしておく。

第I篇 我が国における絵解き

——敦煌変文からの照射——



**Fig. 01**                      **胡跪供养菩薩像 莫高窟 384窟**

盛唐窟正龕北側の脇侍の一、蓮華坐上に片膝たてて跪いて合掌する。供养菩薩が女性的姿態で表現されるに至るのは唐代以後である。賦彩に後補があるが、その姿態は原型をよく保存する。天衣の群青と裳の代赭が壁画の宝相華の緑青と映り合う。結びあげた宝髻、簡素な環珞、蛾眉と細瞳、秀でた鼻と朱の唇。皓体呈露、弱骨豊肌とうたわれた美女賦の表現さながらで、敬虔ななかにも千年前の盛唐女性の官能性が匂うようである。高さ96 cm。

敦煌文物研究所編『敦煌彩塑』（1978年 文物出版社刊 北京）



# 絵解きの世界

- 1 我が国における絵と物語とのかかわり
- 2 敦煌変相画と敦煌変文
- 3 降魔変・目連変・維摩変の場合  
変の意味
- 4 極楽の曼陀羅
- 5 変相画の銘文とエトキ
- 6 俗講僧とエトキ法師
- 7 経変の唱導から俗変の演変へ
- 8 王昭君変の演変
- 9 我が国における変—説話画の世界
- 10 物語絵・歌絵とそのエトキ
- 11